

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	ダイアキッズ（放課後等デイサービス）	公表日 2025 年 1 月 22 日
-------------	--------------------	----------------------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11		・利用しているお子様の特性に合わせて人員配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11			
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11		・毎月1回ペアトレーニングを開催している。 ・県や支援センター、リタリコ、HUG等他社の研修を受講している。研修は全て職員会議で伝達研修をし、スタッフ全員に周知し個々の支援の質の向上を図っている。	
適切 な 支 援 の 提 供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11		・保護者LINEに月に1度配信している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11		・日々個人記録を入力時に支援計画と照らし合わせて評価し、入力を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11			・より詳しい個々の状況に合わせた、5領域対応のアセスメントを作成していく予定
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11			

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		・活動プログラムの担当を決め記録を取り、反省点、課題点等次の活動につなげている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11		・長期休みには就労に向けての職業体験を地域の企業や就労事業所等で体験をさせてもらっている。(中学生)	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11		・支援開始前に送迎の確認をする際、一日の流れや個々の注意事項等の打ち合わせは行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11		・問題行動が見られた際には必ず共有している。 ・ヒヤリハットや個人ファイルに記入し全スタッフが確認できるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	11			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11		・ワークシステム等の作業では、自分で選んで取り組んでいる。 ・遊びたい玩具をカードで選んで、自分で遊びを決められるようにしている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11		・下校時刻について確認不定な時がある。	・保護者の方に早めに知らせてもらうようにお便り等をお願いをしていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11		・挨拶に行き見学をしている。 ・問題行動や保護者様が困っている事に対して共有していくために、見学させてもらい会議をし、支援方法を共有していくようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	11			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	11		・支援センターの研修を受けたり、専門職員巡回訪問をして頂き、アドバイスや助言を頂いている。 ・支援センターの支援の様子を見学している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10	1	・イベント等に参加し、一緒に活動する機会を作っている。 ・児童クラブではないが、お祭りイベントに参加・活動している。	・放課後児童クラブとの交流は難しく、児童クラブの受け入れ体制が出来ていないのが現状であるが、地域の子供たちと交流できるイベント等に今後も積極的に参加していく。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	11		・市原市障がい者自立支援協議会ではなく、市原市障がい者支援協議会として、障がい児通所支援事業所連絡会を開催し、意見交換をしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		・送迎時やお迎え時に伝えている。 ・定期的に面談をしている。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11		・毎月1回している。	
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	11		・保護者会は年に1度開催しているが、沢山の保護者様に来て頂くために様々なテーマを考えて開催している。	・より参加していただき易くするために、曜日や時間の見直し、回数を増やす、きょうだいの預かりを検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		・相談週間を毎月第2週目になっている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	11		・活動の様子をブログにて掲載したり、月初めに保護者LINEにお便り、支援プログラムの配信をしている。緊急時の連絡も保護者LINEを使用している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	1	・招待するような行事は開催していないが、地域の活動やイベント等には積極的に参加し、事業所が地域の中に根付いていくことを目指している。	・スタッフ間の中で地域の行事活動への参加の意味の周知徹底し、取り組める様に共有していく。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11		・アセスメント時に持病（てんかん等）や特性についてお聞きし、服薬は把握している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11		・医師の指示書のある人は、指示書に対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		・専用ファイルを作りスタッフ間で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		・毎年研修を受講している。研修後は職員会議で伝達研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11				